

# 完了報告書

日本財団 会長 笹川 陽平 殿

報告日付:2021年4月8日

事業ID:2019515971

事業名:鳥取県鳥取市における  
第3の居場所の運営(3年目)

団体名:特定非営利活動法人 こども・らぼ

代表者名:岡 武司 印

TEL:070-3789-4565

事業完了日:2021年3月31日

事業費総額	: 14,023,821円	収支計算書の黄のセルの値
自己負担額	: 821円	収支計算書の緑のセルの値
助成金額	: 14,023,000円	収支計算書の赤のセルの値。千円未満は切捨
助成金返還見込額	: 6,987,000円	(収支計算書の青のセルの値)

## 1.事業内容

### ■事業内容1

#### (1)助成契約書記載の事業内容(予定)

1.鳥取県鳥取市における第三の居場所の運営  
(1)期間:2020年4月~2021年3月(週6日、13時から21時まで開所)  
(2)場所:鳥取県鳥取市  
(3)対象:小学校低学年を中心に20名  
(4)内容:「第三の居場所」をつくり、そこで社会的相続を補完する。拠点には専門スキルを備えたスタッフを配置し、子どもとの1対1の関係を重視しながら、子どもたちの生活習慣形成や学ぶ意欲向上を支援する。



#### (2)事業完了時の事業内容(実績)

(1)職員の退職により開所時間を週5日、13時から21時に変更して運営を行った。  
(2)予定通り実施。  
(3)利用者が少人数であったが、より手厚い支援を行うことができた。児童の保育に必要な資格取得など、スタッフの専門性を高めることができた。

#### (3)成功したこととその要因

利用世帯と行政サービスへの接続。  
利用世帯の抱える課題を確認し、保護者に提案し、解決に向けた支援を行った結果、保護者からの信頼を得ることができた。信頼関係構築は保護者のほうから困っていることを相談してくれるようになり、以前より直接的な支援を行うことができるようになった。

#### (4)失敗したこととその要因

体験学習の実施  
土曜日の拠点利用を通して利用児童の体験の補完を行う予定だったが、職員の退職に伴って平日のみの開所としたことから、充分に行うことができなかった。

#### (5)事業内容詳細

①2020年度はリクナビ等を利用してスタッフの雇用に努めたが、職員体制を整えることができず、土曜の開所を中止し、平日は放課後から20時、長期休業中は8時から21時の受け入れとなった。ただし、コロナによる登校制限中は平日でも朝8時から開所し、子どもたちを受け入れた。  
②1年を3期に分け、利用児童全員分の保育計画を作成し、子どもの姿と目指すべき姿を全スタッフで共有し、保育に取り組んだ。また、放課後児童支援員認定講習や保育士資格取得など、スタッフの専門性向上に努めた。  
③研修会で紹介された「コグトレ」を用いたり、児童の状況に即した自作教材を作成するなど、利用児童の学ぶ意欲の向上に務めながら保育を行った。  
④定期的な家庭訪問や、保護者不在の際の里親への接続など、担当課や児童相談所と連携して利用児童の家庭状況把握に努め、家庭の養育力の向上に務めた。

## 2.契約時事業目標の達成状況:

### (1)助成契約書記載の目標

- 1.拠点利用児童の募集(2019年10月時点で6名が登録しているところ、2020年度9月末時点で8名、年度末までに10名とする)
- 2.児童への居場所、食事、生活習慣支援、学習支援などの安定的な提供
- 3.ボランティア等の地域住民や、行政、学校との関係構築
- 4.子どもの「経験の不足」を解消するようなイベントなどの実施

### (2)目標の達成状況[700文字以内]

入力文字数	668	文字数チェック	OK
<p>1.新規利用者獲得のため、春、夏、冬の長期休業中の体験利用を実施した。チラシを作成し、対象小学校全世帯に配布したが、体験利用者は1世帯2人であった。また、鳥取市子ども家庭課と連携し、就学前健康診断の場を活用して、対象小学校へ入学予定の家庭への説明や、近隣の幼稚園、保育所への説明を行ったが、利用者の増加にはつながらなかった。</p> <p>2.子どもたちのニーズに即して遊び道具や本をそろえ、居心地の良い場所を創ることに努めた。生活習慣確立のため、掃除、洗濯などの家事を行ったり、季節に合った衣服の管理を行い、生活の底上げを行った。</p> <p>3.保護者の、「入院時に子どもの預け先を探してほしい」と言う依頼を受け、行政と連携して里親探しを行った。また、生活保護受給に向けた相談も受け、担当課に状況を説明し、スムーズに受給できるよう働きかけを行った。カフェでは、子どもたちが担任の先生を拠点に招き、おもてなしをしたり、拠点での生活を紹介したりすることで、先生方のb&amp;gへの理解を深めた。学習面で大きな遅れがみられる児童について、拠点独自に発達検査を受け、結果を学校と共有し、LD等専門員による授業の観察や宿題の軽減といった配慮につながった。</p> <p>4.夏休みを中心に多くのイベントを企画していたが、新型コロナウイルスの影響で多くのイベントを中止、縮小せざるを得なかった。代替イベントとして、鳥取県東部圏内で密にならないように配慮しながら自然や動物と触れ合うイベントを実施したり、拠点内でのイベントを充実させるなどして、家にいてはできない経験を提供することができた。</p>			

### 3.事業実施によって得られた成果

- ①児童相談所、要対協、学校(SSW)と昨年以上に連携し、利用児童の家庭状況改善のためのつながりを築くことができた。特に学校からは情報提供や相談も増え、鳥取拠点の重要性を広く知ってもらうことができた。
- ②利用家庭の生活保護受給の支援や、生活面での相談を受けるなど、保護者との信頼関係を深めることができた。
- ③コグトレを取り入れたり、楽しみながら学習できるような自作教材を作成、実施し、利用児童の学びを深めることができた。

#### 4.活動を通じて明らかになった新たな課題と対応案

利用児童の募集に関して、鳥取拠点の利用が適当と思われる家庭ほど、利用を断られるケースがあった。関係機関への認知は広まっているが、対象家庭への認知が十分でないと感じている。体験利用の案内を配布し、利用者の拡大に努めたが、対象ではない家庭の利用が増えている。対象家庭をピンポイントで利用につなげるためには、こども家庭課からの声掛けだけでなく、直接面識のある担任やSSWからの声掛けが重要である。そのため、担任やSSWを拠点に呼べるような取り組みを通して認知を広げる必要があると考えている。  
2021年度より、車での送迎が必要な児童の利用が見込まれているため、スタッフの雇用と車両にリースを早急に行う。

#### 5.事業成果物

##### (1)助成契約書記載の成果物名称

活動報告書

##### (2)事業完了時の成果物名称

2020年度鳥取県鳥取市における第3の居場所の運営(3年目)事業完了報告書



##### (3)未作成となった要因

##### (4)成果物を登録したウェブサイトのURL

サイト名・動画名：鳥取県鳥取市における第三の居場所の運営（3年目）事業完了報告書

<https://fields.canpan.info/report/detail/25160>

サイト名・動画名：鳥取県鳥取市における第三の居場所の運営（3年目）

[http://nippon.zaidan.info/jigyo/2020/0000094687/jigyo\\_info.html](http://nippon.zaidan.info/jigyo/2020/0000094687/jigyo_info.html)